

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 67人

② 数学 67人

③ 英語 67人

5 留意事項

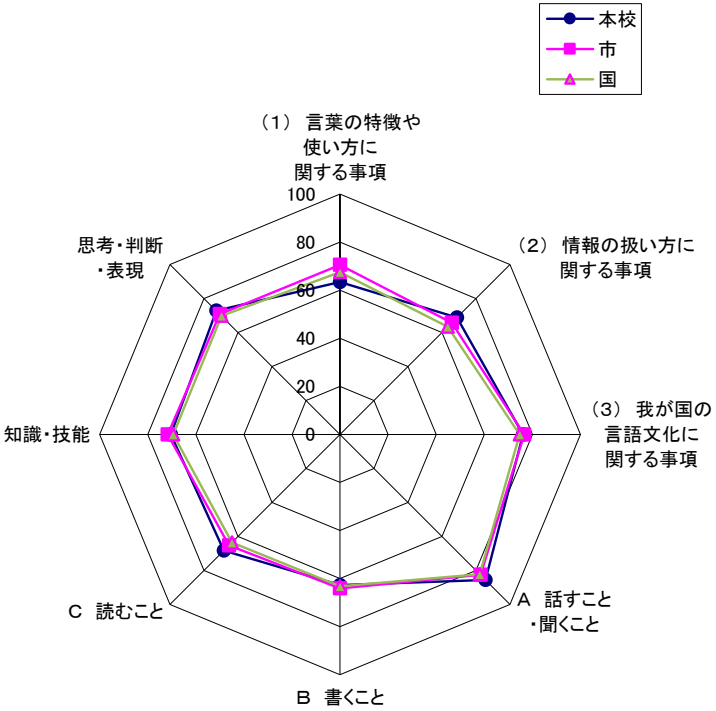
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、英語の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	63.4	70.5	67.5
	(2) 情報の扱いに関する事項	68.7	65.7	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	76.1	76.6	74.7
	A 話すこと・聞くこと	85.6	82.6	82.2
	B 書くこと	62.7	64.1	63.2
	C 読むこと	68.3	65.3	63.7
観点	知識・技能	70.4	71.7	69.4
	思考・判断・表現	72.8	70.8	69.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

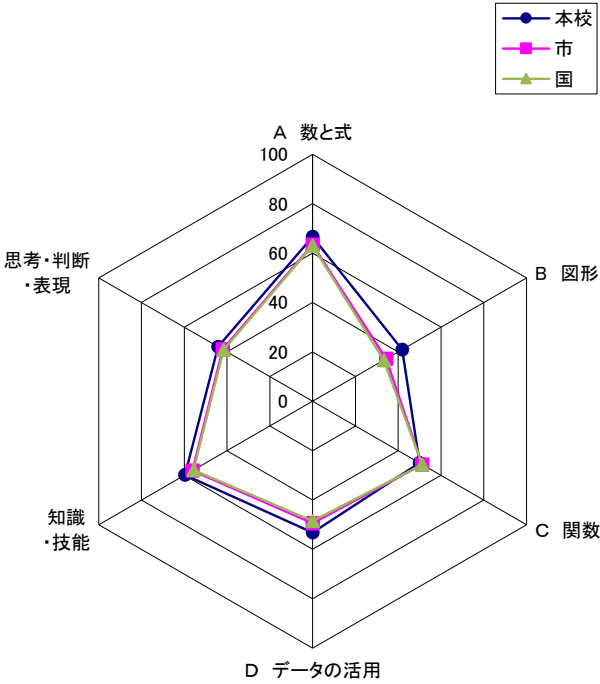
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	●「落胆する」という語彙を問う設問では正答率は83.6%であり、県平均を6.6ポイント下回っている。語彙力や知識などが定着されていないと考えられる。 ●漢字の読み書きについての正答率は43.3%と県平均と比較し正答率が5.1ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・授業冒頭の漢字テストや語彙テストの実施を続けていくことで、語彙力の向上を図る。 ・補助教材としての漢字ドリルなどを有効に使っていくことで漢字力の向上を図る。
(2) 情報の扱いに関する事項	○内容にふさわしい見出しを書く設問の正答率は77.6%であり、県平均を15.7ポイント上回っている。 ●インターネットの記事を読んで気付いた点として適切なものを選択する設問の正答率は59.7%であり、県平均を6.0ポイント下回っている。情報を吟味・取捨選択することについて課題が見られる。	・情報を吟味、取捨選択を学ぶ単元において、意見と根拠との関係について学ぶワークシートを工夫し、理解を深め、定着させる。 ・クロームブックや学習アプリ等、学校教育においてもICT機器を用いて、情報の整理の仕方を学習する際、引用の仕方について繰り返し学ばせる。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く設問の正答率は70.1%であり県平均を0.9ポイント上回っている。書くことに良好な状況が見られる。 ●歴史的仮名遣いについての知識を問う設問の正答率は82.1%であり、県平均を2.2ポイント下回った。古語に対する知識の定着に課題が見られる。	・普段の授業において、自分が書いた文章を生徒同士で読みあう時間を増やしていくことで書く力を伸ばしていく。また、その際にクロームブックのドキュメント機能を活用することで文章をその場で考えて校正する力をつけさせる。 ・古典に対する興味関心を引くように、現代語訳で読める書籍などを紹介する。
A 話すこと・聞くこと	○インタビューのまとめとして自分の考えを書く設問の正答率は91.0%であり県平均を8.5ポイント上回っている。自身の考えを記述することに良好な状況が見られる。 ●メモについて適切なものを選択する問題の正答率は86.6%であり、県平均を0.4ポイント下回っている。聞き取った情報から正しいものを選ぶ力に課題が見られる。	・聞き取りテストの継続的な実施、コロナ禍の中でできるスピーチ発表や、グループ学習の仕方を工夫していくことで、「話すこと・聞くこと」の学習機会を充実させる。 ・ICT機器を用いてスピーチの録画をするなど、今後も教師による授業の工夫に努める。
B 書くこと	●叙述の仕方などを確かめて、文章を整える設問の正答率は46.3%であり、県平均を6.8ポイント下回っている。文章の整備の仕方について課題が見られる。 ●無解答率が10.2%であるため、記述に対しての抵抗感を減少させていく必要があると考えられる。	・作文指導の中でも「短文を書く」指導は、地域学校園での重点目標になっていることもあり、特に力を入れて指導している単元である。引き続きこれらを指導していくことで、「書く能力」を育成したい。 ・「自分の考えを明確にして書く」ことに課題が残る結果であったので、ミニレポート提出などで指導を強化していく。
C 読むこと	○要旨を把握する設問は正答率は80.6%であり、全国平均を6.4ポイント上回っている。 ●文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える記述式である設問の無解答率が20.7%であった。描写を基に心情を読み取る力に課題が見られる。	・物語文では、心情の読み取りや心情の変化分析などについて、グループワークを増やすなど、授業形態の工夫をしていく。授業の中で対話的な発問を繰り返していくことで生徒一人一人の深い読み方を定着させていく。

宇都宮市立上河内中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	66.6	63.4	63.0
	B 図形	41.8	34.3	33.2
	C 関数	50.0	51.2	51.2
	D データの活用	53.2	49.4	48.5
観点	知識・技能	59.7	56.2	55.7
	思考・判断・表現	44.2	42.1	41.6
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

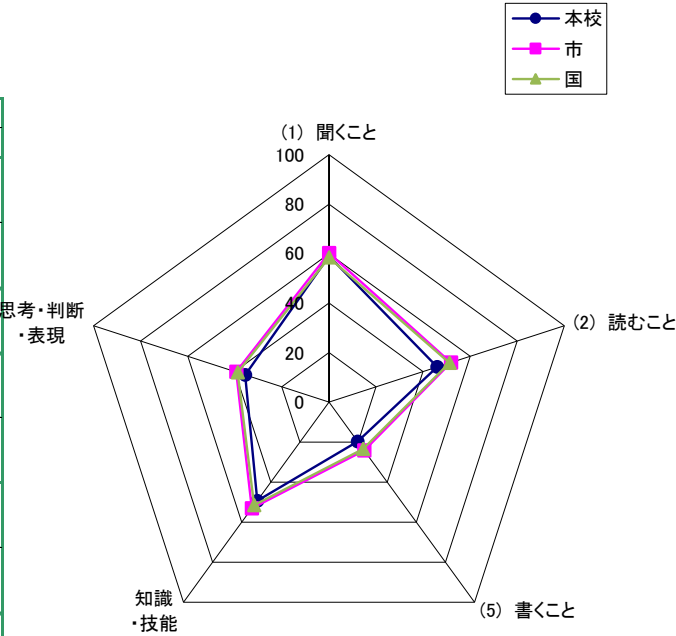
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	○「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる」問題では、正答率が67.2%で、県平均を9.5ポイント上回っている。 ●「結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができるかどうかをみる」問題では、県平均を約1.5ポイント上回ったものの、正答率は41.8%であった。筋道を立てて説明することに課題が見られる。	・知識・技能に関する小テストを、今後も継続して繰り返し取り組ませることで、基礎的基本的な計算を正確に解けるようにする。 ・数学的用語などの意味を定期的に確認する。 ・数の性質についての説明力を高めるために、習熟度学習を取り入れる。
B 図形	○「空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているかをみる」問題では、正答率が43.3%で、県平均を14.4ポイント上回っている。 ●「条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができるかをみる」問題では、県平均を約4.9ポイント上回ったものの、正答率は40.3%で、図形領域の中で最も低かった。証明するために必要な条件を判断することに課題が見られる。	・単元において、用語、定義や定理、証明の書き方など、系統性を踏まえながら指導にあたる。 ・証明問題や図形と関数に関わる発展問題に取り組む機会を増やし、活用する力を身に付けさせる。
C 関数	○「事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができるかをみる」問題では、正答率が65.7%で、県平均を3.9ポイント上回っている。 ●「与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかをみる」問題では、正答率が50.7%で、県平均を6.5ポイント下回った。表やグラフ、式等を関連付けて考え、必要な情報を考えることに課題が見られる。	・既習事項を復習する時間を設け、それぞれの関数の特徴を理解したうえで、問題に取り組ませる。 ・表・式・グラフを関連させながら、それぞれのよさを生徒に気付かせ、適切な表し方を判断して、表現する機会を増やし、定着を図る。 ・グラフの利用の学習では、求め方を説明させるなど、対話的な学びができるような場面を設ける。
D データの活用	○「累積度数の意味を理解しているかをみる」問題では、正答率が64.2%で、県平均を17.6ポイント上回っている。 ●「複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかをみる」問題では、正答率が26.9%で、県平均を7.3ポイント下回った。データの分布から読み取れる内容を説明することに課題が見られる。	・データの特徴を知るために、累積度数や相対度数、最頻値、平均値、箱ひげ図などを活用することの意味を感じられるようにするため、日常生活の場面を多く取り入れるようにする。 ・ヒストグラムや箱ひげ図などから集団の特徴を捉え、数学的な表現を用いて説明する機会を増やし、向上を図る。

宇都宮市立上河内中学校第3学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【英語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	(1) 聞くこと	59.0	60.2	58.4
	(2) 読むこと	46.0	51.8	51.2
	(3) 話すこと[やり取り]			
	(4) 話すこと[発表]			
	(5) 書くこと	19.7	24.2	23.4
観点	知識・技能	49.3	53.1	51.5
	思考・判断・表現	35.6	39.4	38.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 聞くこと	○「ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する」問題では、正答率が83.6%で、県平均を7.6ポイント上回っている。基本的な表現を聞き取ることに良好な状況が見られる。 ●「忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、最も適切な番号を選択する」問題では、正答率が52.2%で、県平均を7.5ポイント下回っている。詳細な内容を論理立てて聞き取ることに課題が見られる。	・授業の帯活動などで、スモールトークを積極的に行ったり、スキット活動などで、多くの英文を聞き、活用する機会を意図的に設ける。 ・まとまりのある英文のディクテーション活動などを通じて、ある程度の内容の情報量をリテンションできる能力を高め、情報を瞬時に整理する活動を取り入れる。
(2) 読むこと	○「事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する」問題では、正答率が67.2%で、県平均を5.8ポイント上回っている。 ●「友達からのメールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する」問題では、正答率が28.4%で、県平均を5.0ポイント下回っている。メッセージ内容の行間を読み解くスキルに課題が見られる。	・パラグラフリーディングの指導を随所に取り入れ、論理的な流れをつかませる練習を行わせるとともに、文脈から代名詞や特定の名詞が何を指しているのかなどの読解力向上につながる活動を行う。 ・情報の多様性という観点から、なるべく偏りのない内容の英文コンテンツを読む活動を仕組む。特にダブルパッセージなど、最新の読解傾向を授業に少しずつ取り入れる。
(3) 書くこと	○「メールの英文を依頼する表現に書き換える」問題では、正答率が28.4%で県平均を2.2ポイント上回っている。 ●「ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く」問題では、正答率が13.4%で、県平均を2.0ポイント下回っている。あるテーマに対して、まとまった英文で論証することに課題が見られる。	・あるテーマについてロジックを意識し、まとまりのある5文程度の英文を習慣的に書く活動を行わせている。今後継続していく中で、書くことに慣れさせる。 ・表現力をより高めるために、まとまった内容の英文の音読練習を十分に積ませた後で、ライティングに使える表現をリストアップし、活用させる。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に関しては、肯定的割合は92.5%で、県の平均を10.0ポイント上回っている。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に関しては、肯定的割合は97.0%で、県の平均を6.5ポイント上回っている。さらに、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問に関しては、肯定的割合は100%で、県の平均を4.5ポイント上回っている。このことから、自己肯定感や自己有用感が高い生徒が多く、また自分のよさを他の人のために生かしたいと思っている生徒も多いと考えられる。今後も、その気持ちをもち続けられるよう、よさを認めていく声掛けをしていきたい。

○「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という質問に関しては、肯定的割合は79.1%で、県の平均を9.9ポイント上回っている。また、「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に関しては、肯定的割合は92.6%で、県の平均を10.1ポイント上回っている。今後とも、学校生活が充実していくように、生徒と信頼関係を築いていくとともに、さらに相談しやすい態勢を整えていきたい。

○「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問に関しては、肯定的割合は56.7%で、県の平均を18.1ポイント上回っている。また、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という質問に関しては、肯定的割合は71.7%で、県の平均を3.8ポイント上回っている。昨年度まで、コロナ禍で多くの行事の実施が難しい中でも、地域に根付いた行事に積極的に参加したい生徒や、地域のために活動したいと思っている生徒が多いと考えられる。

○PC・タブレットなどのICT機器の活用については、県の平均を大きく上回っており、調べ学習や意見発表、振り返りなどで充実した活用ができていていると考えられる。

○「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という質問に関しては、肯定的割合は77.6%で、県の平均を5.3ポイント上回っている。また、「授業で学んだことを、他の学習で生かしていますか」という質問に関しては、肯定的割合は82.1%で、県の平均を8.4ポイント上回っている。ただ勉強を頑張るだけではなく、考えて学習に取り組んでいる生徒が多いと考えられる。

●「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」という質問に関しては、肯定的割合は77.6%で、県の平均を2.4ポイント下回っている。また、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」という質問に関しては肯定的割合は91.0%で、県の平均を1.9ポイント下回っている。規則正しい生活を心がけることで、体調を整えることができ、様々な活動を継続して粘り強く取り組むことにもつながるので、家庭と連携して改善していきたい。

●「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」という質問に関しては、肯定的割合は76.2%で、県の平均を3.8ポイント下回っている。他の人の意見や考えのよさに気付いたり、他の人の意見を聞いて自分の考えを深めたりできるように、各教科の授業における話し合い活動の持ち方を考えていきたい。

●「学校の授業以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか」という質問に関しては、30分以上と回答した割合は15.0%で、県の平均を15.4ポイント下回っている。また、「読書は好きですか」の質問に関しては、肯定的割合は61.2%で、県の平均を7.4ポイント下回っている。学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこととして、各教科や総合的な学習の時間の授業などで、積極的に図書館を活用したり、読書のよさを啓発したりする場面を増やしたい。

宇都宮市立上河内中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
表現力を高め、自分の考えを伝え合う授業	主体的で対話的な学び(アクティブラーニング)の実施に向け、思考力を深めるために、各教科で共通して「書く時間」を重視した授業を展開する。	「1,2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」の質問に肯定的に答えた生徒の割合は70.2%で、県の割合より2.6ポイント低かった。 国語の「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」問題では、全国の平均と比べて7.0ポイント、県の平均と比べると7.5ポイント高い。また、「表現」に関わる問題の校内正答率において、国語の「書くこと」の領域は市の平均を1.4ポイント下回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
基礎的・基本的内容の定着がされていない。	基礎的・基本的内容の定着を図る。AIDリルや振り返り活動の充実を図る。	・各教科で確実に定着させる内容ではドリル学習(AIDリル等)を根気強く行う。 ・達成目標を小さく設定し、確実に達成できるようにする。 ・家庭学習の習慣化及び質の向上を図らせる。